

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：教育分科会（第3回）

開催日時：平成21年9月30日（水）13時00分～16時00分

開催場所：教育委員会5階 会議室

出席委員：海老名みさ子、鎌形武久、神山真理、小林恵美（副分科会長）、三枝雅信（分科会長）、竹島さゑ、橋本恵子、山口和子、関聡、山口明、難波幸男（敬称略、順不同）

欠席委員：なし

事務局：伊東朱美、久富博之（政策調整課）

【会議内容】

■分科会会長挨拶

神社の獅子舞保存のための協力がある中学校に依頼したら、宗教活動に当たるといって断られた。宗教活動に当たるかどうかは別として、獅子舞は市の無形文化財であり他の自治体では類似事例もあるのだから、協力してくれてもいいのと思うのと同時に、伝統文化の継承の大切さを痛感した。本日は宣言文づくりに向け、多くの観点からご意見をお願いしたい。

■事務局説明（本日のねらい・進め方の確認）

本日のねらい：「目指したい姿の宣言文の検討」

- ・ 資料の確認
- ・ 進め方：各政策が具体的にどんな状態を実現したいのか明らかにし、委員の想いを統合して共有することで、本気で目指したい姿を描く。
- ・ 話し合いのルール
 - ⇒全ての意見に価値を置く
 - ⇒人の話をよく聴く
 - ⇒想いや考えは全体で共有する
 - ⇒時間厳守
 - ⇒未来に焦点をあてる

■ チェックイン：「今の正直な気持ち」や「気になっていること」などの想いを共有

■ これまでの話し合いの振り返り

■ 「目指したい姿の宣言文」素材検討

■ 宣言文作成に当たり、「目的」、「手段」、「成果」、「その他」の4つの要素について、宣言文の素材になりそうなキーワードを出していった。それを整理したものが別表。

■ 検討する政策の選定・順序の確認

検討の順序に関しては特に意見がなく、政策7から順に検討していくこととなった。各政策で検討した内容の要旨は以下の通り。

政策7

- ・ 政策名に「将来の目標」とあるが、目標といってもいろいろなものが考えられるので、宣言文もある程度網羅的な内容がいいと思う。
- ・ 空想する力は、ものづくりの原点となる力で、それを育む読書は大事なもの。
- ・ 「成果」に着目して考えると、学力面と精神的な問題の二つと他のいくつかに分けられるのではないか。
- ・ 松戸市全体の子どもたちのことを考えたときに、どういう言葉が最も訴えかけられるかという観点で考えたい。
- ・ 今回は、すでに決められた総合計画の政策の方向性があるので、そこに収まる方がいいと思う。ただし、今考えているのは後期の計画なので前期とは少し違うものにする。全然違うものを出したら実行性がなくなってしまう。
- ただ、将来のありたい姿ということだからある程度は枠からはみ出してもいいのではないか。また全てのことはできないから、優先順位もある程度考える必要がある。
- 子ども達の「豊かな心」を中心テーマにしたらいいと思う。
- ・ 「成果」の部分は最終結果だから、ある程度強い言葉を使った方がいいのではないか。
- 「成果」としては、「お金もうけではなく人間磨き、生きる力」を全体の主題にしたい。そういう大きな人間の育成を目指すようにすべき。
- 確かに教育の最終段階としては、人生の目標とかスケールの大きい方がいい。人間としての成長が重要なテーマ。
- ・ 「手段」としては、市民参加や地域の力を学校に活かすという部分が重要ではないか。
- ・ ボランティア機会の充実や体験学習の充実も、同様に重要。
- こういう場所で得たことはいくつになっても忘れない。そういう知恵を子ども達に伝えていきたい。
- 地域力を活かすという場合には、地域の人が単独でやることもあるだろうし、学校に入ってやることもあり得るし色々なケースが考えられる。
- ・ 「目的」としては、「学校と地域の新しい関係」を中心にした。

- 学校の教育だけでは子ども達の目標を持つことができないわけだから、そこに地域がどう関わられるかが新しく考えるべきところ。
- 子ども達の将来の自立をサポートするという観点からも考えるべき。
 - ・子どもの教育だけでなく、本当は大人の教育ということも考えた方がいい。
 - ・知・徳・体のバランスが取れていない子が増えてきている。

政策 8

- ・スポーツは、年取ってから入るのはハードルが高いので、若いころから始めておくのがいい。子どもの頃からのスポーツ活動を推奨したい。
- これは、心身ともに健康に暮らすための手段として重要。それによって、医療費もかからない。
- スポーツ活動だけでなく、読書など幅広い趣味をもつことが大事だと思う。
 - ・「成果」としては、年齢にかかわらず「心身ともに健康」がキーワードになるのではないか。
 - ・「手段」は、様々なことを楽しむための場所がないので、それを増やすということになるのか。例えば空き教室の活用とか。
- 「手段」に関しては、スポーツとか読書とか本当に数多くの趣味があるので、それらをうまくまとめないといけない。まさに「生涯」学習だから。人が楽しく、いきいきできるということも重要。
- サークル等の参加する「機会」を作るソフト面と、ハードの整備との両面から考えた方がいいと思う。后者では、小さなグループの活動を支援するのがいい。
- さらにしぼって言うと、人が集まってくる、集まれるチャンスを作るのが大事ということではないか。場だけあっても人はなかなか活動しない。チャンスを作ることで、地域に友人を増やすしかけを作る。
- さらに、集まった人が発表できたりする場所があるといい。
- 集まるというのはただ見るだけでなく、そこに「参加できる」というのがキーワード。自分の身内に例があるが、スポーツであれ音楽であれ、何でも人は参加できることに生きがいを感じるのだと思う。
- まとめると、様々な分野について人を入れるための施設と、参加できる場所・チャンスを作ることが重要。

政策 9

- ・「成果」は、松戸が住みたい街になること、「地域に対する愛着・誇り」がキーワードになる。
- ・ツアーを組んで、市内の観光名所を回ったりする機会があったが、そういう

ものがないのではないか。その時に説明してくれる人として、シティガイドのような観光ボランティアの育成も、大切だと思う。奈良では、一般市民がかなりたくさんそういう資格を取ってやっているらしい。松戸でも、そういう市民を育てていきたい。そうすれば、ちょっとした市民の需要などにも応えることができるのではないか。

・松戸はあまり歴史上有名なものがないので、漫画などをうまく使うと、子どもにも地元の歴史を興味深く学ばせることができると思うが。

→実は学校の副読本（「われらの松戸」）で、漫画や写真をまじえてかなり詳しく歴史を紹介しているが、問題は学校でどこまでそれを使っているかにある（実際の副読本を回す）。残念ながら、大人用のものは作っていない。市販ではなく、学校で子どもに配っているだけ。

→大人用のそういう本があれば、売れるのではないか。買う人は絶対いるはず。

→「松戸検定」などをやってみるのもいいかもしれない。

→副読本ではなく、パンフレットのようなもので、市全体の歴史を簡略に知ることができるようなものがほしい。堅苦しくないものにしないと、人が見なくなってしまう。

→確かに、市立博物館では様々な展示をやって工夫を凝らしているが、そういう全体像という視点は欠けるかもしれない。

→実は、そういうパンフを作っている（「観光マップ」を回す）。問題なのは、行政がこれを作っただけで満足してしまっていて、市民の目にとまる機会がないことなのかもしれない。

・市内のいろんな場所の由緒がわかると、そこに対する愛着のわき方が全然違うし、散歩しても楽しい。多くの市民に、そういう知識を持ってほしい。

■チェックアウト

■分科会会長あいさつ

最終的に宣言文をまとめることができたが、今日出た話題にはすでに計画や、各種調査に出てきているものもかなりある。重要なのは宣言そのものより、宣言した内容をどう実行して後押ししていくか、またどうトレースするかだと思うので次回もよろしくお願ひしたい。

■ 次回の内容の確認

本日検討した「目指したい姿の宣言文」を踏まえて、それを実行するための行政と市民との役割分担や、その成果をはかるための指標について検討する。

■次回分科会の日程の確認

日時：平成21年10月16日（金）

場所：市役所新館7階 大会議室

■別紙「宣言文検討用資料」「目指したい姿の宣言文一覧」

以上

政策7 子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする

<p>目的 (・・・に向けて、・・・のために)</p>	<p>手段 (・・・を通して、・・・をすることで)</p>	<p>成果 (・・・を実現する、・・・を生み出す)</p>	<p>その他</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・読書好きの子どもを増やすため ・学校と地域の新しい関係 ・生きる力となる多世代交流を活発にするため。 ・国際人を育てる ・松戸市全体の学力向上を図るために ・将来のなりたい職業のために ・授業を楽しくするために ・読書に親しみ、豊かな人間性を身につけるため ・ものづくり、理科好きの子どもを育てるために ・子どもたちの将来 ・いろいろな動植物の共生 ・地球温暖化の防止に向けて ・異文化、違う立場との出会いを深める ・多様な価値・異文化を理解 ・自然を大切に作る心を育てる ・新しい教育の場を拓く ・学ぶ楽しさを知る ・言葉を豊かに ・コミュニケーションツールとしての「ことば」教育 ・子ども間の格差をなくすために ・学びあう楽しさ ・地域コミュニケーションの原点 ・自律した人になるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の充実、専門の司書をおく ・読書のすすめ、話すことのすすめ ・読書に親しむ図書館の充実 ・ためになる漫画コーナーを含めた図書館を増やす ・国語力向上のために図書館充実 ・オール世代接点の場として町会の活性化 ・魅力的な教育プログラム ・知恵のある、技術のある、人間味のある手段 ・外国人、障害のある人たちと交わる ・エコ教育を取り入れる ・基礎基本を習得 ・外国人講師の活用 ・学校での勉強(学習)をすること ・地域の者ができることで学校に入り、指導する ・ボランティア機会の充実 ・生徒同士や近所の人が先生に ・教育の素人の力を混ぜる(チャレンジ) ・科学館や学習の時間を多くする ・近所の子どもに、地域のおじいちゃんおばあちゃんがその役をつとめる ・体験学習の時間を多く取り入れる ・地域と学校がうまく協力する ・地域の力を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人を思いやれるようになる ・人間として成長する ・真の生きる力を引き出す(チェンジ) ・学力や道徳のある子ども ・豊かな学力を生む ・きめ細かな指導により課題解決につながる ・生きがいのある社会づくり ・話し合う、教えてもらう、一緒に楽しむ ・教えることで自分もわかる ・自己効能感(やればできる、努力は報われる)を高めていく ・なりたい職業の実現(夢の実現) ・自立した人間 	

政策8 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする

目的 (…に向けて、…のために)	手段 (…を通して、…をすることで)	成果 (…を実現する、…を生み出す)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・日々楽しくいきいきと過ごすため ・生涯学ぶ楽しさを味わう ・地域住民が子どもから老人まで仲良く生きるために ・ストレスを抱えている子どもたちに向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・PRとスポーツ施設の充実を図る ・スポーツ、助け合いを通してコミュニケーションする ・空き教室、放課後、センターなどで大人の指導者と ・空教室を図書館に改造 ・地域に友人を増やすシカケを作る ・健全育成のために、地域でクラブチームを組織 ・昔話、読書、スポーツなど趣味を見つける、考える ・生涯スポーツの好きな種目ですること ・趣味(生きがい)を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に関わらず生き生き暮らせる ・心身ともに健康 ・健康な老後を送るため ・いつまでも住んでいたいまち ・松戸市民としての一体感、安心感 ・住んでよいまち松戸 	

政策9 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする

目的 (・・・に向けて、・・・のために)	手段 (・・・を通して、・・・をすることで)	成果 (・・・を実現する、・・・を生み出す)	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化、芸術に親しめ、想像力のある子どもに育てるため ・市の文化レベルの向上のために ・誇りの持てるふるさと ・松戸に親しみをもっと持つ ・伝統文化教育は小・中学校から ・戸定館の使用法の再検討 ・伝統工芸士他文化人を市の文化に活かす ・松戸の歴史や文化、伝統を残すため ・歴史に残る松戸 ・自分が今この地にあることに向けて ・松戸の文化、伝統の継承のために ・松戸の歴史を広く知ってもらうために 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から住んでいる人達、知識持っている人達に歴史、文化、伝統を通して行 ・ゆかりのある文化人、作品を知らせる ・マンガまつど市を作る ・公(的)立博物館の企画展示等を工夫する ・学校、公共施設を使つての実践 ・森のホールを使って、大々的に学校対抗文化祭 ・戸定館を、茶道その他有効に使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸が住みたい街になる ・松戸市民としての誇り ・松戸(地域)に対する愛着とふるさとの大切さを知る ・戸定館がよりよい形で残る ・生涯学習施設の拡充(人との関わりの向上) ・機械相手のゲームより、皆と一緒の伝統的なものは面白いよ 	

目指したい姿の宣言文<一覧>

分科会	政策	目指したい姿の宣言文
次代を育む 文化・教育 環境の創造	7 子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにする	子どもたちが自立した人間になるために、地域の力を活かし体験を重視した学校と地域の新しい関係を通して、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す。（生きる力＝知・徳・体のバランスがとれている）
	8 生涯学習やスポーツを楽しむことができるようにする	生涯を通じて学び続ける楽しさを味わうために、自主的に参加しやすい場所や機会を増やすことで、年齢に関わらず心身ともにいきいきと暮らせるようにする。
	9 松戸の歴史や文化・伝統が保持され、後世に伝えられるようにする	誰もが誇りのもてる”ふるさと松戸”に向けて、皆が松戸の歴史や文化・伝統が身近に感じられる工夫をこらして、松戸を愛する人を増やす。